

化石研 ニュース

No.129 2017/05/14

編集・発行：化石研究会事務局

〒370-2345 群馬県富岡市上黒岩1674-1
群馬県立自然史博物館 高桑祐司気付

第35回化石研究会 総会・学術大会

(於 福井県立恐竜博物館)

プログラム

- 会期・日程：2017年6月3日（土）～4日（日）
 - 6月3日 13:00～17:15・・・記念講演、シンポジウム、懇親会
 - 13:00～13:05 会長挨拶（三島会長）、開催趣旨説明（平山会員）
 - 13:05～13:35 記念講演「手取層群の恐竜動物群」（2ページ参照）
 - 13:35～17:15 シンポジウム
「手取層群の層序と生物相-前期白亜紀の東アジアの
陸上生態系の解明を目指して-」（2～3ページ参照）
 - 19:30～21:30 懇親会（別会場・要申込）
 - 6月4日 10:00～15:25・・・総会、一般講演
 - 10:00～10:45 総会
 - 11:00～11:40 一般講演（口頭発表）午前の部（4ページ参照）
 - 13:00～13:30 一般講演（ポスター発表）コアタイム（4ページ参照）
 - 13:30～15:20 一般講演（口頭発表）午後の部（5ページ参照）
 - 15:20～15:25 閉会の挨拶
- ※ 総会を除き、記念講演・シンポジウム・一般講演は、どなたでも聴講できます。

- 会場：福井県立恐竜博物館（勝山市村岡町寺尾 51-11）2階 研修室・実習室
- 参加費：無料・・・会員・非会員とも総会・学術大会の参加費は無料です。また、化石研究会会員は下記の方法で入館証を提示すると観覧料免除となります。
 - ★ 化石研ニュースが郵送の方・・・同封の入館証を持参して受付で提示。
 - ★ 化石研ニュースがメール配信の方・・・添付した入館証 PDF ファイルをプリンタで出力し、当日持参して受付で提示。

※ 非会員の方は通常の入館券の購入が必要です。

会場へは、博物館正面入口（3階扱い）から入り、受付を抜けたら、エスカレーターに乗らずに、右横にある階段で2階に降ります。階段を降りたら右折します。10mほど進んで突き当たりを右折すると、受付が見えるはずですが、要所要所に「化石研究会会場 →」の張り紙を貼ることを予定しています。

記念講演 「手取層群の恐竜動物群」

(6/3 13:05~13:35)

講師・・・野田芳和さん(福井県立恐竜博物館 副館長)

内容・・・北陸地域に広く分布する手取層群からは、脊椎動物化石が豊富に産出し、現在6種の恐竜化石が記載されている。そのほかにも数多くの恐竜化石、足跡化石や卵殻の化石なども報告されている。

各地の恐竜化石を概観するとともに、特に福井県勝山市北谷の恐竜化石発掘とその成果を紹介する。また、その恐竜動物群の意義についても考察する。

シンポジウム

『手取層群の層序と生物相』

—前期白亜紀の東アジアの陸上生態系の解明を目指して—

(6/3 13:35~17:15)

13:35~14:05

講演1 「手取層群の主要化石産地の時代論—熱河生物群との比較を目指して—」

講師・・・佐野晋一さん(福井県立恐竜博物館)

内容・・・中部地方北部に分布する、ジュラ紀末?~前期白亜紀の手取層群に関して、海成層の時代論や数値年代などのデータの整理を試みた。この結果、脊椎動物化石産出層として著名な桑島層はバレミアン、北谷層はアプチアンと推測され、中国東北部の熱河層群とほぼ同時代と考えられる。しかしながら、手取層群と熱河層群の動・植物相には顕著な違いが認められ、当時の東アジアにおいて地域的な生物相の違いが存在したものと考えられる。

14:05~14:35

講演2 「碎屑性ジルコン年代分布を用いた日本の白亜系の後背地解析」

講師・・・大藤 茂さん(富山大学)

内容・・・ジルコンの多くは初生的に火成岩の構成鉱物で、そこから分離したジルコンの砂粒が碎屑性ジルコンです。近年の機器の発達により、碎屑性ジルコン一粒一粒を年代測定し後背地の火成岩の年代分布を推定できるようになりました。この手法は後背地解析の強力な武器となり、日本と世界の化石の関連性を考える際にも重要なヒントを与えます。今回は、北陸地方の手取層群、四国秩父累帯の物部川層群などの堆積場と大陸との関係を考察します。

14:35~15:05

講演3 「手取型植物群再訪：研究の現状と今後の展望」

講師・・矢部 淳さん（国立科学博物館・地学研究部）

内容・・手取型植物群は手取層群石徹白亜層群の桑島層および相当層から産する「手取植物群」を基準に提唱された群集で、中国北部やシベリアにも分布する。本群集はジュラ紀中期から白亜紀前期にいたるまで組成変化がないと強調されてきたが、近年の層序の見直しや年代値の蓄積、上下層の大型および花粉・孢子化石研究の進展により、白亜紀前期の環境変化の中で理解されるようになってきた。講演では今後の研究の方向性も提案したい。

<15:05~15:20 休 憩>

15:20~15:50

講演4 「手取層群の哺乳類化石研究

—福井県の例と日本の中生代哺乳類化石研究の展望—

講師・・宮田和周さん（福井県立大学恐竜学研究所・福井県立恐竜博物館）

内容・・福井県では手取層群北谷層の恐竜化石発掘現場から数は少ないが、注目すべき哺乳類化石が発見されている。恐竜化石よりは見つけにくいですが、日本には哺乳類の初期の進化史に関わる重要な資料があり、今後も驚くような発見が続くことが期待される。

15:50~16:20

講演5 「コリストデラ類とローラシア大陸の淡水動物相」

講師・・松本涼子さん（神奈川県立生命の星・地球博物館）

内容・・コリストデラ類はジュラ紀-中新世に繁栄した淡水生の爬虫類である。彼らの起源はペルム紀-三畳紀に遡ると考えられているが、その分布はローラシア大陸に限られ、これまでに見つかっている種数もわずか11属24種である。コリストデラ類の化石記録が非常に限られている要因を探るため、コリストデラ類の生息環境の古気候と動物相を精査したところ、ワニとの競合関係や、彼らの環境的特性が明らかになってきた。

16:20~16:50

講演6 「手取層群のカメ類：その分類と生層序学的意義」

講師・・平山 廉さん（早稲田大学国際教養学部）

内容・・手取層群（前期白亜紀）からは、少なくとも7科に属する15タクサに分類される多様なカメ類（爬虫綱、カメ目）が確認されている。下位より大黒谷層、桑島層、赤岩層、北谷層でそれぞれ異なったカメ類を産出する。これらのカメ類化石は、手取層群内の生層序学的指標として有用であると同時に、スッポン上科（基盤的グループ、*Kappachelys okurai*、アドクス科、ナンシュンケリス科、およびスッポン科）など現代型潜頸類の進化を探るうえで貴重な資料を提供する。

16:50~17:15 総合討論

19:30~21:30 懇親会（要申込[5/19 まで]）

くわしくは5ページをご覧ください。

※ 11:00~12:30 運営委員会 [役員等のみ]

総会[会員のみ] (6/4 / 10:00~10:45)

例年と同じ様に、2017年度の総会を開催いたします。

会員の方は、必ずご出席ください。

一般講演[口頭・ポスター]

(6/4 / 11:00~11:40・13:00~15:20)

午前の部（口頭発表）

11:00~11:20 O-1 ミャンマーの後期新生界産長鼻類化石

(三枝春生・高井正成・西岡佑一郎・THAUNG-HTIKE・

ZIN-MAUNG-MAUNG-THEIN)

11:20~11:40 O-2 有袋類オポッサムにおける出生後の顎の形成過程

(鈴木久仁博・若松義雄)

<11:40~13:00 昼食>

午後の部（ポスター発表・口頭発表）

ポスターコアタイム

13:00~13:30 P-1 福井県越前海岸の約500万年間（中新世）の哺乳類足印化石の概要

(安野敏勝)

午後の部（ポスター発表・口頭発表）

口頭発表

- 13:30~13:50 O-3 概日リズム同調因子メラトニンによる象牙質や象牙芽細胞の組織構造への影響（三島弘幸・田辺咲貴・服部淳彦・鈴木信雄・寛光男・松本敬・池亀美華・見明康雄・松本由樹）
- 13:50~14:10 O-4 星形生痕化石 *Asteriacites quinquefolius* の2種の異なる型
—現生ヒトデ類を用いた形成過程の検証—（石田吉明）
- <14:10~14.20 休憩>
- 14:20~14:40 O-5 ベトナム古第三系より産出した化石カメ類（予察報告）
（平山 廉・小松俊文・Phan Dong Pha・Ta Hoa Phuong・Tuấn Đăng Minh・Doan Dinh Hung・對比地孝亘）
- 14:40~15:00 O-6 兵庫県南あわじ市の和泉層群下灘層産モササウルス類
プリオプラテカルプス亜科と思われる歯化石
（谷本正浩・岸本眞五・森 恵介）
- 15:00~15:20 O-7 愛知県豊橋市大岩町の更新統産大型植物化石と古環境
（吉川博章）

15:20~15:25 閉会あいさつ

※ 演者の皆様へ

- ・一般講演（口頭）は、講演15分、質問5分の計20分です。
- ・発表用ファイルはUSBメモリで渡せるようお願いいたします。
- ・ポスターを掲示するのは、幅92cm×縦182cm（高さは支持脚30cmと併せて212cm）の有孔ボードになります。

懇親会（6/3 19:30~21:30）への申込み

<5/19 締切>

日時：6/3（土）19:30~21:30（博物館前17:40発のバスで移動します）

参加費：¥6300（料理＋飲み放題／税込）

会場：「八兆屋」（福井駅から徒歩1分）

お申し込みは電子メール、もしくはFAXで下記まで

〒370-2345 群馬県富岡市上黒岩1674-1

群馬県立自然史博物館 高桑祐司気付 化石研究会事務局 宛

メールアドレス：BXJ04105@nifty.ne.jp もしくはFAX：0274-60-1250（館）

<福井県立恐竜博物館へのアクセス>

福井駅から福井県立恐竜博物館へのアクセスについては、本ニュース 128 号や下記の同館ウェブページを参考にして、最新情報を確認のうえお越しください。

<https://www.dinosaur.pref.fukui.jp/guide/access.html>

(参考)

- (6/3) 福井駅 9:47 発→勝山駅 10:30 着、勝山駅 10:35 発→博物館前着 10:47
福井駅 11:25 発→勝山駅 12:19 着、勝山駅 12:30 発→博物館前着 12:42
- (6/4) 福井駅 8:28 発→勝山駅 9:31 着、勝山駅 9:33 発→博物館前着 9:45

<宿泊施設について (再掲) >

- 福井駅前・・・東横イン、ホテルルートイン福井駅前、ホテルエコノ福井駅前、ユアーズホテル、少し離れてホテルフジタ福井あたりが距離/価格/質のバランスが取れているかと思えます (後二者は他の3つよりも少し高め)。
- 勝山市内・・・勝山でホテルと呼べるのは勝山ニューホテル一件のみで、あとはみな宿です。結構な古さと聞いておりますが、実態はよくわかりません。ただし勝山ニューホテルから博物館に来るための公共交通手段はありません。宿の「板葺」の場合、博物館まで来るバスの停留所まで歩いて2、3分になります

<6 / 4の昼食について>

- 6 / 4は日曜日のため、館内にあるカフェ&レストラン DINO が混み合う可能性があるとのことです。また、勝山市内のコンビニは博物館から少し離れています。福井駅周辺のコンビニで調達して持参することも一案かもしれません。

>>> 事務局だより <<<

- 多くの会員の皆さまに、会費を納入いただきました。どうもありがとうございました。未入金の会員の皆さまも納入をよろしくお願いいたします。

編集・発行：化石研究会事務局

〒370-2345 群馬県富岡市上黒岩 1674-1 群馬県立自然史博物館 高桑祐司気付

TEL: 0274-60-1200 / FAX: 0274-60-1250 / E-mail: BXJ04105@nifty.ne.jp

ホームページ <http://kasekiken.jp/>

郵便振替口座 記号番号 00100-7-633288

名称 化石研究会 (カセキケンキュウカイ)

年会費 一般 4000 円 (学生 2000 円)

この化石研ニュースは、上記の化石研究会のホームページではカラーで見ることができます。

現在、印刷版のニュースが郵送されている方の中で、郵送しなくても良い方は是非ご連絡ください。